令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【東浦和中学校】

① 今年度の課題と学力向上策

	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	【学習上の課題】 全ての教科における基礎的・基本的な内容のさらなる定着、学習意欲の向上と学習習慣の定着 【指導上の課題】 問題演習や小テストなどの実施およびそれらの結果を分析し授業改善に反映させること	⇒	ICT等を活用し、継続的に問題演習や単元テスト等を繰り返し、定着を図る。それと同時に、生徒の学習意欲を向上させるため、生徒の勉強量が可視化できる「外発的動機づけ」の取組みを行い、そこで積み重なった内容を分析し、生徒の学習計画がより具体化する一助となるようにすることで、この取組みが生徒の学習に対する「内発的動機づけ」となるように促していく。【通年・単元ごと】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 文章やグラフなどのデータを踏まえ、自分の考えたことを自分の言葉で表現すること 【指導上の課題】 自分の考えたことを自分の言葉で表現する機会を多く確保すること	⇒	自分たちが考えるべき課題を見つけ、解決するために必要な資料、データを探し、それらを活用して自分の考えを自分の言葉で表現する機会を、各教科の単元のまとめの時間や、STEAMS TIMEの時間で取り入れる。【通年・単元ごと】

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語の平均正答率は、全国及びさいたま市の数値を上回っている。数学の平均正答率は、全国の数値を上回っている一方で、さいたま市の数値はやや下回っている。また理科の平均正答数は、全国の数値をやや上回っているが、問題によっては下回っているものもある。特に、生物分野の内容に苦手意識があると考えられる。
思考・判断・表現	国語、数学、理科の平均正答率は、全国の数値を上回っている。特に国語では、読むことに関しての正答率は全国及びさいたま市の数値を大きく上回っている。また書くことに関しては全国の数値をやや上回っている一方で、さいたま市の数値をやや下回っている。書くことは今後の課題として捉えていきたい。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「外発的動機づけ」の取組により、生徒の学習に対する意欲が可視化されるようになり、特に定期テスト期間における生徒の学習に取り組む姿勢は高まってきている。一方で、テスト期間外の学習に取り組む姿勢はあまり向上してはおらず、現状では学習に対する「内発的動機づけ」には達していない状況である。	変更なし
思考・判断・表現	A	各教科で単元ごとにまとめの時間を設けていたり、1単位時間の授業の中で、自分の考えを自分の言葉で表現させる取組を行ったりしている。生徒自身が「考える」機会がとても増えている。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	「〇〇の勉強は好きか」という項目について、全教科で肯定的な回答が市平均を上回っている。その一方で、知識・技能の数値は市平均に比べあまり高くない。個別最適な授業改善と併せ、家庭での学習の充実を実現させるために、各教科で結果のデータ収集を図り、授業に反映させていく必要がある。
思考・判断・表現	知識・技能と同様、市平均と比べると数値はあまり高くないが、数学や社会、理科では、知識・技能よりも高い数値が出ている学年もある。各教科の授業において、思考・判断・表現を力を高めるための教材研究を行っていることが結果に反映されていると考えられるが、より高い数値を出すためには、知識・技能の向上が必要不可欠である。

⑤ 学力向上策の実施状況

	評価（※）	
知識・技能	B	生徒の学習意欲向上のための「外発的動機付け」の取組を行ってきた。テスト期間などでの取組状況を見ると、積極的に取り組んでいる生徒には効果が出ていると感じられるが、テスト期間外でも同様に学習に対する姿勢が高まったとは言えなかった。
思考・判断・表現	A	自分たちの考えを根拠に基づいてまとめ発表するという機会を各教科やSTEAMS TIMEで行ってきた。さいたま市学習状況調査でも、思考・判断・表現の数値は知識・技能よりも高い数値だった教科が多かった。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と学力向上策

知識・技能	授業だけでなく、日ごろの学習習慣の定着は大きな課題である。より学習意欲を高めるための学習支援について、個別最適な学びが行えるような教材研究を各教科で行っていくことが必要である。また、カリマネデザインマップの活用を通して、教科を横断した学習の道筋を立てていくこととともに、「分かる・できる」喜びを味わわせることで次の学習への意欲が高まることも多いので、生徒一人ひとりに寄り添った学習支援を行っていきたい。
思考・判断・表現	今年度と同様、自分たちの考えを根拠に基づいてまとめ発表するという機会を、全ての教科で実践させていきたい。自分で表現することでより理解が深まったり、自分自身の考えがより深まることがある。主体的・対話的で深い学びが実現されるような教材研究を、各教科で行っていきたい。